静岡音楽館倶楽部情報誌 March 2007
No.45

# AOI通信

CONCERT HALL SHIZUOKA

ひらひら 舞う花、音楽のように。

INDEX

インタビュー：
福田進一が語る《悲歌集》
この1曲：《偉大な芸術家の思い出に》
「静岡の名手たち」…いま、そしてこれから…
コンサートシリーズ 2007
AOI Information
シェフ池田のおいしいレシピ
レビュー：山田晃子の室内楽

CONCERT HALL SHIZUOKA
こころに響く
静岡音楽館AOI
〒420-8691 静岡市葵区黒金町1番地の9 TEL(054)251-2200
E-mail：info@aoi.shizuoka-city.or.jp URL：http://www.aoi.shizuoka-city.or.jp

## 福田進一（ギタリスト）が語る

# 演劇的組歌曲《悲歌集》新しいうたのかたち

《悲歌集》は、林望（リンボウ）先生の詩（テキスト）と野平一郎芸術監督の作曲で誕生したギターとフルートと一緒に演奏される“うた”です（津田ホール委嘱作品。2006年2月14日初演）。6月1日、AOIでの再演を前に、ギタリストの福田進一さんに、詩や楽曲の構造、そしてギターと歌の歴史についてお話を伺いました。

**初演を聴いたとき、ギターの爪弾（つまび）きは心の琴線に触れるようで、フルートの息遣いはため息みたいで、この楽器編成が本当にしっくりくる、と思いました。そして、野平さんの音楽を熟知する福田さんと佐久間さんだからこそ、この作品の真価が表現されたのだと感じました。**

野平さんとは学生の頃から30年近くの付き合いです。パリ時代に寮が一緒で、彼が最初にギター二重奏《連鎖する陰影》（1979-80）を手がけたときに、ギターの奏法について教える機会がありました。その後、僕が野平さんに頼んだギター・ソロの曲が《アラベスクⅣ》（1981-82）です。

《悲歌集》には、《アラベスクⅣ》の技法が随分使われています。短期間で作曲された濃厚な作品だけれども筆の運びがスムーズだなと思いました。

野平一郎氏と

**福田さんは、この詩（テキスト）についてどう思われましたか？**

実は、林望（リンボウ）先生がどういう詩を書くのか、心配していました。届いた詩は、自分たちの恋愛経験とあまりにかけ離れており、随分ロマンティックなので、野平さんとふたりで唖然としました。経験に基づかないことは書けないみたいな（笑）

林望先生の意図は良く分かりました。いままでの日本の歌はI·Love·Youとハッキリ言わない。だからハッキリ言う歌を作りたかったのではないかと。日本では男女の恋愛関係で、「口に出さなくても分かるだろう」みたいなところがありますね。しかし、シューマンの《女の愛と生涯》やシューベルトの《冬の旅》などドイツ歌曲の世界では、随分と饒舌に語っています。

林望氏

**《悲歌集》の詩は、恋人の別れから始まり、断ち切れない思いを自分のなかでどう清算するか、いつまでもイジイジやっている。ヨーロッパの歌でも恋人たちがハッピーというよりも、恋がいかに辛いかという内容が多いですよね。**

世界中の歌はきっとこういう傾向ですよ。「他人の不幸は蜜の味!」というでしょう。それに片思い。これは誰でも経験するので、自己投入しやすいのではないでしょうか。

**詩を読んで、『万葉集』や『古今集』などの、情熱的で直接的な表現を思い出し、林望先生の古典の教養が反映されているのでは、と思いましたが…。**

音楽は詩に対して、一定の距離感を持っていると思います。詩のロマンティックさに接近しすぎない。例えばイタリアの愛の歌は「私を死なせて!」とか「もし私を愛してくれたら」とか、日本語で聞いたら「勘弁してよ!」っていうような詩に音符が寄り添いロマンティックに仕上がっています。《悲歌集》では、素材の詩には、とてもロマンティックに語らせるけれども、音楽は、付かず離れず、の距離感を保つことで、作品に立体感が生まれている。

2006年2月14日　津田ホール（東京）

第1曲〈悲しいぞ〉は、ギターの単音で始まります。単音自体が持つ力で孤独感が表されています。第2曲〈得失〉ではそれまで歌と対等に、心理的反映のように旋律を弾いていたギターが、女声になるとふっと背後に隠れる、その後ろからフルートが別の声域のように現われる。さまざまなグラデーション構造になっていて演っていてとても面白い。第3曲〈豪雨と雷鳴〉で初めて男女が二重唱になります。第4曲〈八年の痛み〉はテノールのバラードで、ギターはほとんど出ずっぱり。第5曲〈海風〉でギターが完全に引っ込み、歌2人とフルートのみになるところで完全に歌だけの要素になる。そして、第6曲〈想うことはいつも〉で突然JAZZの要素になり、第7曲〈永劫の‥‥〉は集大成。そういう構成が非常にうまく出来ています。

**昨年6月にAOIで演奏されたように（福田進一meets 荘村清志／2006.6.9）、〈間奏曲〉の抜粋でも新しいギターのレパートリーとして成立していますしね。**

フルートとギターの〈間奏曲〉は、一音一音奏法が異なり難しいけれど弾き応えがあります。野平さんの音色の語彙に想像力を掻き立てられます。でもやはり《悲歌集》は作品全体として聴いてもらいたいです。始めから終わりまで時間を共にすることで、初めてこの曲の良さが伝わります。

**1時間もある大作とは思えないくらい、聴く側は本当にひきつけられ集中しますね。**

何を歌っているかすべてしっかり聴こえるんですね。現在では、歌い手もずいぶんに柔軟に日本語の歌い方を心得ていますし、曲自体発音がずいぶんと考え込まれています。望月さんと林さんはそれぞれ以前共演したことがありましたが、こういう素晴らしい新しい歌い手が出てくるのは本当にうれしいです。

望月哲也（テノール）

林美智子（メゾ・ソプラノ）

**現代、楽器の奏法がかなり変化しましたが、それらの技法的な発展がギターにも影響していますか？**

ギターと歌の組み合わせは古く、15〜16世紀のスペインやイギリスのダウランドに代表されます。ギターは歴史上最初の伴奏（和声）楽器ですが、鍵盤楽器のように大きな発展をしなかった。ロマン派の時代に一旦廃（すた）れてしまいます。現在は、技法（テクニック）的にかなりの表現が出来るようになりましたから、どんどん新しい作品が書かれなくてはいけないと思っています。ギター再興（ルネッサンス）の時代です。戦後は、ブリテンが良い曲をたくさん書いています。ギターの単音のエネルギーを信じて書いた人では、ブリテンとヴィラ=ロボス。この2人は別格です。

**ブリテンがギターとの歌曲を書いたのは、遡（さかのぼ）ればダウランドの歴史があるからで、伝統の重みを感じますね。**

現在ヨーロッパでは、国民性（ナショナリズム）がかなり意識されています。もともと陸続きなのに、ユーロの発足で境界線があやふやになり、国を意識しないと自分のアイデンティティーが危うくなるのでしょうね。

**日本は物理的に海に隔てられ、言語的にもヨーロッパ内のような近似性はありませんからね。**

日本の歌というものがあると思い込んでいるのかもしれない。しかし、明治・大正時代の日本歌曲に戻るしかない。山田耕筰の時代にね。

これからは《悲歌集》がきっかけとなってギターと歌の作品がどんどん生まれるのを願っています。ギターはいちばん経済的な楽器で持ち運び可能だし、イスさえあればどこでも演奏可能。それでいてこれほどの音楽世界を作り出すことが出来ます。これからの時代はエコロジーです。ギターのようなエコロジー楽器が脚光を浴びる時代ですよ（笑）。

2007年2月21日／津田ホールにて
取材・編集：静岡音楽館AOI　大坂ゆう子
協力：楠瀬寿賀子（津田ホール）

福田進一（ギター）　Shin-ichi FUKUDA（Guit.）

大阪生まれ。パリ・エコール・ノルマル音楽院を首席で卒業。イタリア・キジアーナ音楽院で最優秀ディプロマを受賞。1981年、パリ国際ギターコンクールで優勝し、さらに内外で輝かしい賞歴を重ねた。既にほとんどの欧米主要都市に招かれリサイタルを開催。C.デュトワ指揮N響団等のメジャーオーケストラとの協奏曲、ジャンルを超えた一流ソリストとの共演は常に話題を集め、絶賛を博している。19世紀ギター音楽の再発見から現代音楽までの斬新でボーダレスな活動は世界的な評価を獲得している。 また、教育者としての活動も積極的で、鈴木大介・村治佳織・大萩康司等の未来のギター界を担う逸材を輩出している。

ート予告

**2008/2/22（金）19:00**
**ジャパン・ギター・カルテット** 福田進一、鈴木大介、村治佳織、大萩康司

CONCERT INFORMATION

「リンボウ先生」こと林望の詩に
野平一郎が作曲、
2006年2月に東京で初演。
「1音の夾雑物を許さずはねのけた
哲学的な音の世界」と絶賛された
「切れば血の出るような恋の歌」、
待望の再演。

## 演劇的組歌曲《悲歌集》Elegies

**6/1**（金）19:00 開演（18:30 開場）
全指定¥3,500（会員¥3,150、大学生以下¥1,000）

林美智子（メゾ・ソプラノ）、望月哲也（テノール）、
福田進一（ギター）、佐久間由美子（フルート）、
野平一郎（チェンバロ）

F.クープラン：恋のうぐいす
G.カッチーニ：アマリッリ
J.P.E.マルティーニ：愛の喜び
C.モンテヴェルディ：私を死なせて
G.B.ペルゴレージ：もし貴方が私を愛してくれて
G.F.ヘンデル：泣かせてください
G.パイジェッロ：うつろの心
野平一郎：演劇的組歌曲《悲歌集》
（津田ホール委嘱作品）　ほか

講演会

「コンサートをより深く愉しむために《悲歌集》のお話をリンボウ先生から聞いてみませんか」

**講演会 リンボウ先生、《悲歌集》を語る**
5/27（日）15:00　講堂（7F）
無料（要申込）
林望（詩人、エッセイスト）

## この1曲 ■ P.I.チャイコフスキー（1840–93） ピアノ三重奏曲《偉大な芸術家の思い出に》イ短調 op.50（1881～82）

小林旬（静岡音楽館AOI 学芸員）

P.I.チャイコフスキー

ある春の日。チャイコフスキーは、ピアニストのニコライ・ルービンシュタインとともにモスクワ郊外の丘を散策していた。ニコライは兄アントンとともにその頃のロシアでもっとも重要な音楽家で、演奏家としてのみならず教育者としても音楽大国ロシアの地盤を築いた。彼はモスクワ音楽院を創立、アントンのペテルブルク音楽院に学んだチャイコフスキーを教授に迎えた。チャイコフスキーの作品のかずかずをヨーロッパで演奏、その存在を拡（ひろ）く世に識（し）らしめたのもニコライだった。ニコライがいちど、チャイコフスキーのきわめて独創的なピアノ協奏曲第1番を酷評してふたりは訣別したが、後にその真価を認め、ふたたび親密な友情をとり戻した。

そのニコライが、旅の途中、パリで急死した。音楽院を辞めてからというもの、多くの時間を外国と田舎の別荘に過ごし、あまりひとと接することがなかったチャイコフスキーはひどく胸を痛めた。このピアノ三重奏曲は、その哀しみのなかから生まれた。第1楽章〈悲歌的な楽章〉はまさに沈痛な音楽である。初め、静かな分散和音に導かれ、チェロからヴァイオリンへうけ継がれるメロディは、かけがえのない友を突然に失ってしまったことへの慟哭（どうこく）である。チャイコフスキーは泣いているのだ、深く。第2楽章、やさしさを感じさせる主題は、あの、ニコライとともに散策した丘で聴いたある農民の唄から採られたともいわれる。それはワルツ、フーガ、マズルカなどつぎつぎと華麗に変奏され、亡きピアニストを回想するかのようだ。やがて音楽は激情的なまでの高潮に達し、第1楽章の主題が圧倒的な存在感で還ってくる。やはり、死の哀しみにうち克つことはできない。最期、葬送行進曲がだんだんと遠くへ、虚ろに消えゆく・・・・。

チャイコフスキーの室内楽作品がごくわずかであるにもかかわらず、この作品は音楽史に燦然（さんぜん）と輝く傑作である。以後、追悼曲としてのピアノ三重奏曲はロシア音楽の伝統のひとつとなった。チャイコフスキーの死もラフマニノフにピアノ三重奏曲第2番を書かせ、ショスタコーヴィチは音楽学者I.ソレルチンスキーのためにピアノ三重奏曲第2番を作曲した。

このコンサートで演奏されます！

**6/14（木）19:00**
ブラヴォー・アンコール！
**N響首席奏者による室内楽**

## 「静岡の名手たち」・・・いま、そしてこれから・・・

第6回合格者（2001年度）

### 増田訓子（ヴァイオリン）

私は、これまで静岡市役所の「Hotひといきコンサート」に何度か出演させていただいておりますが、この度、AOIの「クリスマス★コンサート」に出演させていただき、AOI・レジデンス・クァルテットの皆さんと「静岡の名手たち」の一員として共演できたことに、大きな喜びと意義深さを感じ、心から感謝しております。このコンサートでは特に、音楽というものを架け橋に、聴き手と奏者の一体感が得られたのではないか、と思っています。これは、両者の間に境目を感じず、心を通わせられる演奏を、と思う私には、大変素晴らしくうれしいことでした。

私はこれまでヴァイオリン・ソロの演奏をはじめ、カルテットや弦楽アンサンブルなどの室内楽、そしてオーケストラ活動をしてきました。その一つ一つの活動の中で心に残る熱い想いを感じ、私自身のエネルギーにしてきましたが、このような想いを一人でも多くの方に抱いていただけたら、と思っております。これからも目標として、聴いてくださる方々の心の奥まで届くような、心に溶け込むような演奏をしてまいりたいと思います。そして、静岡の音楽文化がより一層盛んに素晴らしいものになるよう、私もヴァイオリンの演奏活動を通じて、少しでも貢献できればと思っております。

増田訓子（中央）　2006年12月24日 クリスマス★コンサート

AOI INFORMATION

ギル・シャハム

江口玲

■5/23（水）19:00

## ギル・シャハム ヴァイオリン・リサイタル

今回が4年ぶりの日本ツアーとなるギル・シャハム。ピアノは、シャハムが公私共に信頼し合っている、江口玲。真に息の合った二人の演奏で、プログラムはオール・ブラームス! ちなみに、シャハムは、天体物理学者の父と、遺伝学者の母を持ち、その優秀な遺伝子を引き継いだのか、幼い頃から並外れた才能を発揮して、I.スターンや、H.シェリングといった巨匠に「神童」と絶賛されていたそうです。「神童は大成しない」。巷ではよく言われていますが、その噂、果たして本当でしょうか・・・?

# ここが聴き逃せない!

コンサートシリーズ 2007の魅力。
静岡音楽館AOI 宿島幸恵

■6/1(金)19:00

## 演劇的組歌曲《悲歌集》

タイトルの作品は、当館芸術監督　野平一郎が、作家 林望の詩に作曲した、全7曲からなる歌曲集です。2006年2月に東京・津田ホールで初演され、非常に高い評価を受けました。当館企画会議委員で、静岡在住の福田進一（ギター）、「第2期ピアノ伴奏法講座」講師の佐久間由美子（フルート）、さらに、2006年1月のオペラ公演に引き続いての出演となる、林美智子（メゾソプラノ）、望月哲也（テノール）と、AOIに縁が深く、国内一流メンバーで作り上げられたこの最高傑作。会員の方々には、ぜひご鑑賞いただきたい作品の一つです。

■6/14(木)19:00

ブラヴォー・アンコール!

## N響首席奏者による室内楽

内容は、ずばり!タイトル通りです。2005年5月にAOIで公演を行い、大好評を頂いたことから再演が決定しました。AOIは、みなさまご存知の通り、室内楽に最適の広さと音響を兼ね備えたホールで、良質の室内楽公演を企画の中心としています。本公演では、きっと室内楽の素晴らしさに感動され、喝采を送らずにはいられなくなることでしょう。

堀正文

木越洋

横川晴児

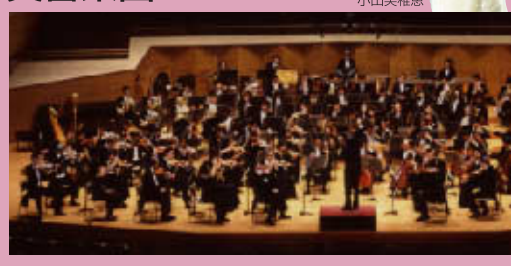
野平一郎

■6/26(火)19:00

アメリカを聴くⅠ
オーケストラを聴こう

## 日本フィルハーモニー交響楽団

小山実稚恵



今年のAOIの主題は、「アメリカ」。アメリカ特集第1弾は、アンケートで開催要望の多いオーケストラでどうぞ。プログラムは、まさにアメリカ! 20世紀アメリカを代表する作曲家、A.コープランドの曲に始まり、G.ガーシュウィンの《ラプソディー・イン・ブルー》、そして、A.ドヴォルザークの《新世界》。アメリカの壮大なスケールを、今シリーズ一番の出演者数となる、見た目でも豪華なこのステージで体感してください。

■7/14(土)18:00

アメリカを聴くⅡ

## ニューヨーク・フィル・ブラス・クインテット

アメリカ特集第2弾は、名門「ニューヨーク・フィル」の首席奏者たちによって結成された金管五重奏団、その名も「ニューヨーク・フィル・ブラス・クインテット」による公演です。彼らは、その絶妙なテクニックに裏打ちされた華麗なアンサンブルで観客を魅了し続け、その質の高い演奏は、全世界で大きな反響を呼んでいます。さらに、内容も親しみやすいものとなっていて、ステージ上でのパフォーマンスも好評を得ています。本場のアメリカン・サウンドの神髄を、存分にご堪能ください。

**静岡音楽館倶楽部　会員募集中!**

静岡音楽館倶楽部では随時、会員を募集しています。
AOIが主催するコンサートのチケットの優先発売・
10%割引や特別コンサートへのご招待、などの
うれしい特典付き!（年度会費¥2,000）
※詳しくはホームページをご覧下さい。
**http://www.aoi.shizuoka-city.or.jp**

お問合せ／静岡音楽館倶楽部事務局
TEL.054-251-2200

# 静岡音楽館 AOI-2007

こころに響く

CONCERT HALL SHIZUOKA コンサートシリーズ
芸術監督：野平一郎

大学生以下
（28歳以下）
¥1,000

沼尻竜典

ニューヨーク・フィル・
ブラス・クインテット

## 第1期　好評発売中

**5/23（水）** 19:00 ¥4,000 [会員 ¥3,600]
銘器ストラディヴァリで奏でるオール・ブラームス
**ギル・シャハム ヴァイオリン・リサイタル**

**6/1（金）** 19:00 ¥3,500 [会員 ¥3,150]
切れば血の出るような恋の歌
**演劇的組歌曲《悲歌集》**

**6/14（木）** 19:00 ¥4,000 [会員 ¥3,600]
ブラヴォー・アンコール!
**N響首席奏者による室内楽**

**6/26（火）** 19:00 ¥5,500 [会員 ¥4,950]
アメリカを聴くⅠ
オーケストラを聴こう
**日本フィルハーモニー交響楽団**

**7/14（土）** 18:00 ¥5,000 [会員 ¥4,500]
アメリカを聴くⅡ
**ニューヨーク・フィル・ブラス・クインテット**

「アメリカを聴く」シリーズ
セット券発売中!
13,000円
（会員12,000円）

## 第2期　7/14（土）より発売　会員優先発売 7/7（土）～13（金）

**9/15（土）** 18:00 ¥3,500 [会員 ¥3,150]
アメリカを聴くⅢ
**モートン・フェルドマン:TRIO** 没後20年
現代アメリカを代表する作曲家モートン・フェルドマンを偲ぶ。

**9/29（土）** 18:00 ¥1,500 [会員 ¥1,350]
**第12回「静岡の名手たち」**
オーディション合格者によるコンサート

AOI・レジデンス・クヴァルテット

**10/12（金）** 19:00 ¥2,500 [会員 ¥2,250]
オペラ・アリアから唱歌まで、美味しい歌のフルコース。
**シェフ池田の「おいしい歌はいかが?」**

**10/31（水）** 19:00 ¥3,500 [会員 ¥3,150]
ロンドンを拠点に意欲的なテーマで聴衆を魅了しつづけてやまないピアニスト
**小川典子 ピアノ・リサイタル**

小川典子

**11/11（日）** 18:00 ¥3,500 [会員 ¥3,150]
愛と絶望、究極のロマンティシズム。
**AOI・レジデンス・クヴァルテット ポール・メイエを迎えて**

ポール・メイエ

**11/23（金・祝）** 18:00 ¥4,000 [会員 ¥3,600]
世界最新鋭の音楽を静岡へリアルタイムに直輸入。
**クロード・ドラングル サクソフォン・リサイタル**

**12/15（土）** 15:00 ¥4,500 [会員 ¥4,050]
伝統と革新、豪華な邦楽の祭典。
**邦楽三撰** 中村明一（尺八）、高田和子（三絃）、沢井一恵（箏）

---

講演会とミニ・コンサート
## アメリカを聴く
6/16（土）15:00 講堂（7F）　無料（要申込）

奥田恵二（音楽評論家）
鈴木理恵子（ヴァイオリン）、野平一郎（ピアノ）

A.コープランド：ヴァイオリン・ソナタ
C.アイヴズ：　ヴァイオリン・ソナタ第4番
　　《キャンプの集いの子どもの日》
G.ガーシュイン：歌劇《ポーギーとベス》（J.ハイフェッツ 編）より

アメリカを聴く

---

## シェフ池田のおいしいレシピ

バリトン歌手の池田直樹さんは、NHK男の料理コンテスト大賞を受賞するほどの腕前。
お宅のキッチンはプロ仕様とか･･･。
10月12日のコンサート「おいしい歌」に向けて、池田さんご自慢のレシピを紹介していきます。

### エビと山芋のエスニック炒め

**エビのプリプリ感と、山芋のサクサク感を活かした、ピリッと辛みの効いた一品です。**

材料（5人前）：
エビ（中サイズ15本）、
山芋（棒状ならば20センチほど）、
イタリアンパセリ
（普通のパセリでもOK）、
オリーブオイル、
ブイヨンキューブ1個、
塩、黒胡椒、
チリパウダー
（メキシコの混合スパイス）

①エビは、皮をむき、背ワタをとり、半分（一口大）に切る。ボウルにとり、片栗粉をまぶし少しもんだ後、水洗いし片栗粉を流す。しっかり水を切り、白ワイン（日本酒でもOK）をひたひたにかける。このアルコールで、エビはプリプリになります。
②山芋は、エビの大きさより少し大きめの一口大に切ります。
③ブイヨンキューブ（マギーがお奨め）1個を、大匙5杯ほどの湯で溶かす。かなり濃いスープです。
④フライパン（あるいは中華鍋）を熱し、オリーブオイルで、エビを炒める。軽く塩、胡椒し、ここでは8分だけ火を通し、皿にとります。
⑤同じフライパンに、オリーブオイルを足し、山芋を炒める。山芋のサクサク感を残したいので、中まで熱くなればOKです。
⑥4に炒めたエビを戻し、一緒に軽く炒め、途中でブイヨンをかけいれ、チリパウダーを多目に振り入れます。さほど辛いスパイスではありませんので、たっぷり!
⑦チリパウダーが、まんべんなくからんだら、白い大皿に高く盛り、エキストラ・バージンのオリーブオイルを振り、パセリを散らす。
⑧食す！感嘆の声あがる!!

# Review

真嶋雄大（音楽評論家）

## レビュー：1/13（土） シリーズ・若い翼 山田晃子の室内楽

今井信子、原田禎夫、野平一郎

R.シューマン：ピアノ四重奏曲 変ホ長調 op.47
W.A.モーツァルト：ヴァイオリンとヴィオラのための二重奏曲第2番 変ロ長調 K.424
J.ブラームス：ピアノ四重奏曲第1番 ト短調 op.25

1月13日（土）、「シリーズ・若い翼」のひとつ《山田晃子の室内楽》が行われた。山田は1986年生まれ、2歳で渡欧して母からヴァイオリンの手解きを受けた。13歳でパリ国立音楽院に入学し、数々の国際コンクールで優勝、或いは上位入賞を果し、2002年にはロン＝ティボー国際コンクールで史上最年少第1位の栄誉を獲得、現在はヨーロッパを中心に積極的な演奏活動を展開している。

今回の共演は今井信子（ヴィオラ）、原田禎夫（チェロ）、野平一郎（ピアノ）で、プログラムは、シューマン「ピアノ四重奏曲」、モーツァルト「ヴァイオリンとヴィオラのための二重奏曲第2番 K.424」、そしてブラームス「ピアノ四重奏曲第1番」。

まずはシューマン。冒頭の序奏からシューマン独特の和声感が漂う。こういう情感は、単に譜面に記載してある音を出せば表出されるわけではなく、それには作品に対する深い共感と、何よりも長年培った経験が不可欠となる。今回は今井、原田、野平という名人たちがいればこその重厚な説得力が作品の土台を支え、躍動感と燃えるような生命力を吹き込み、そして輝かしく昇華されていったのである。若い山田はそれに呼応し、誘発されるように新鮮かつ大胆なアプローチを見せる。アンサンブルとしても明確な輪郭を保ちながら見通しが良く、その上で紡がれていく“歌”の、なんと自然でみずみずしい潤いに満ちていることか。揺蕩（たゆと）うような第1楽章、闊達（かったつ）で多様な変化を見せる第2楽章、第3楽章の優美でたっぷりとした情感は心を捉えて離さない。主題を受け継ぎ、なお悠揚（ゆうよう）と絡み合って表徴される情緒はいかにもシューマンらしく、清冽（せいれつ）なロマンが気品とともに香り立つ。そして特徴的なフガートなどを快活な表現力で呈示し、情熱的な疾走感でクライマックスを築いた第4楽章など、心躍る演奏とはまさにこのことだ。

続くモーツァルトはやや山田の気負いも感じられたが、それを温かく包み込むような今井の手腕はさすが。第1楽章序奏の透明で静謐（せいひつ）な歩み、アレグロによる主部の起伏、たった2台の弦楽器による様々な対比が彫りの深い音楽を生み出す。甘美な滋味（じみ）に溢れた第2楽章、力強く華やかな色彩感が湧出（ゆうしゅつ）された第3楽章、2人の類稀な感性がこだまし合って格調高いモーツァルトが生み出された。

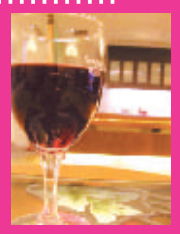
後半のブラームスはまさに絶品。誌面が少ないのがもどかしいほどであるが、作曲者の複雑に揺れ動く内省を標榜し、音楽の核心に迫る著しく水準の高いブラームスであった。抜群の安定感の上に、ほどよい緊張感と集中力が常に保たれ、アンサンブルとしての絶妙なバランスは濃厚な密度と仄（ほの）かな陰影に彩られて比類がない。柔軟かつ真摯な展開、堅牢（けんろう）な造形、細部に至るまで神経が行き届いた丁寧な表情、そして深々とした精神性と嫋（たお）やかな抒情性は、室内楽の醍醐味が漂渺（ひょうよう）する境地へと収斂（しゅうれん）した。

特別なことは何もしないことの凄みを思い知らされた演奏会だった。


AOIのラジオファンが増えています。

静岡音楽館AOIクラシック・ギャラリー

K-MIX（静岡79.2MHz、浜松78.4MHz）
毎週日曜日　17:55〜18:00
コンサートシリーズで演奏される曲をちょっとだけご紹介。
コンサートへの愉しみがますますUP。



8Fバーカウンターでワンショット！

AOI主催コンサートでは、会員の方に8Fバーカウンターにてグラスワイン・コーヒー・紅茶をサービスさせて頂いております。ぜひ、サービスチケットをご利用ください。

株式会社サンタモンコーポレーション

静岡音楽館倶楽部法人会員（2007年2月末日現在）
かわした歯科クリニック／コカ・コーラ セントラル ジャパン（株）静岡支店
（株）サンタモンコーポレーション／静岡ガス（株）音楽部
静岡ターミナルホテル（株）／鍼灸・指圧 六番町ぬちぐすい／（株）タミヤ
（株）竹酔／三菱電機（株）静岡製作所（50音順）

わたしたちは静岡音楽館AOI「コンサートシリーズ」を応援しています。
静清信用金庫　TOKAI　スター精密株式会社


コンサートの思い出・ご感想などをお寄せください。AOI通信にてご紹介させていただきます。


PRINTED WITH SOY INK　R100